

(117)

氏名(生年月日) **小 澤 英 樹**
 本 籍
 学位の種類 博士(医学)
 学位授与の番号 乙第2078号
 学位授与の日付 平成13年3月16日
 学位授与の要件 学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
 学位論文題目 **腹部動脈瘤計画手術患者遠隔期における予後決定因子の検討**
 論文審査委員 (主査)教授 小柳 仁
 (副査)教授 笠貫 宏, 堀 貞夫

論 文 内 容 の 要 旨

〔目的〕

腹部動脈瘤に対する計画手術の早期成績は安定しており、種々のリスクファクターを有する症例に対しても積極的に手術を行う機会が増えている。一方計画手術の遠隔成績は、手術時年齢での健常人の平均余命と同等には長期生存は得られなかったとする報告が多い。今回我々は当科の腹部動脈瘤計画手術の遠隔成績と、遠隔期予後に影響を与えた術前術中因子を統計学的に検討した。

〔対象および方法〕

対象は1980年1月より1999年6月までに東京女子医科大学循環器外科で行われた腎動脈下腹部動脈瘤計画手術連続338例のうち病院死亡4例を除いた334例である。手術は全例初回手術で、術式はいずれも瘤切除および人工血管置換術が行われた。術前術中因子として年齢、性別、脳血管障害、虚血性心疾患、腎機能障害、呼吸機能障害、閉塞性動脈硬化症、高血圧、高脂血症、糖尿病、術前よりの不整脈、腹部以外の部位の残存動脈瘤、開腹術の既往、同時手術に注目した。追跡は外来診療録ないし電話連絡で生死および死因を確認し、全死亡回避率と心臓血管死回避率を算出した。また年齢は母集団をほぼ均一化するため3群に分け、他はその有無で2群化し、単変量および多変量解析を行った。

〔結果〕

遠隔死亡を80例に認めたが、うち突然死、不明死を含む心臓血管関連死48例であった。全死亡回避率は5年81.0%、10年54.5%であった。また、心臓血管関連

死回避率は5年90.0%、10年72.5%であった。全死亡に関して有意であった術前術中因子は、単変量解析では年齢、不整脈、残存動脈瘤であり、多変量解析ではこれらに加えて腎機能障害であった。心臓血管関連死に関して有意であった術前術中因子は単変量解析では年齢、残存動脈瘤であり、多変量解析ではこれらと虚血性心疾患、腎機能障害であった。手術時年齢については80歳以上の高齢者の腹部動脈瘤計画手術の成績が緒施設から報告されており、今回の症例を特に60歳台、70歳台、80歳以上に分けた場合の全死亡回避率を求めた。60歳台に対し70歳台80歳以上は共に有意差を認めしたが、70歳台と80歳以上とでは有意差は認めなかった。

〔考察および結論〕

今回の検討での遠隔期成績は全死亡回避率、心臓血管関連死回避率とも良好であった。術後遠隔生存に影響を与えた術前術中因子は年齢、残存動脈瘤、腎機能障害、虚血性心疾患、術前からの不整脈であった。特に年齢および残存動脈瘤については全死亡回避率、心臓血管関連死回避率両方の予後規定因子であった。このことは加齢に伴う全身の動脈硬化を主体とした慢性的な臓器機能低下が、遠隔に影響を及ぼしていると考えられ、綿密なフォローアップの重要性を示している。また80歳以上の高齢者の遠隔予後は70歳台と有意差は認めず、術前の活動度およびQOLを考慮した手術適応を行うことで高齢者であっても十分な遠隔予後が期待されると考えられた。

論文審査の要旨

腹部動脈瘤に対する計画手術の早期成績は安定しており、種々のリスクファクターを有する症例に対しても積極的に手術を行う。一方計画手術の遠隔成績は、手術時年齢での健常人の平均余命と同等には長期生存は得られなかったとする報告が多い。腹部動脈瘤計画手術の遠隔成績と、遠隔期予後に影響を与えた術前術中因子を統計学的に検討した。遠隔期成績は全死亡回避率、心臓血管関連死回避率とも良好であった。術後遠隔生存に影響を与えた術前術中因子は年齢、残存動脈瘤、腎機能障害、虚血性心疾患、術前からの不整脈であった。80歳以上の高齢者の遠隔予後は70歳台と有意差は認めず、術前の活動度およびQOLを考慮した手術適応を行うことで高齢者であっても十分な遠隔予後が期待されると考えられた。

主論文公表誌

腹部動脈瘤計画手術患者遠隔期における予後決定因子の検討

東京女子医科大学雑誌 第70巻 第12号
752-756頁 (平成12年12月25日発行) 小澤英樹

副論文公表誌

- 1) Use of arterial grafts for coronary revascularization: experience of 2987 anastomoses (冠動脈再建

における動脈グラフトの使用 2987 部位への吻合の経験). Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 47(7): 325-329 (1999) 富澤康子, 遠藤真弘, 西田 博, 新浪 博, 田中佐登司, 富岡秀行, 小澤英樹, 菊地千鶴男, 小柳 仁

- 2) TMLR 後に左室冠状動脈瘻を認めた1例. 胸部外科 52(6): 488-491 (1999) 日比野成俊, 遠藤真弘, 西田 博, 富澤康子, 平田欽也, 新浪 博, 田中佐登司, 小澤英樹, 福本 淳, 小柳 仁